



114
A2860



大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈



今般又返府より堺縣と鐵道と
築結社に議より同府上高人及志願
者共々曲意同府推知事源を升
申降し縣政統一案を要堺の大坂
近水開成より即ち急務とて
各々共々なるに即ち人民鐵道
至便なるに支費結社此案を無
事成し望むに依りて其進歩の一端
一月 第六号



此水之達也漸為安地
一布置於成於其後
一在休其地之為尚
一在休其地之為尚
一在休其地之為尚

明治六年一月九日

溫澤正五位

正院

山

河内縣知事正院
之文

河内縣知事正院
之文

河内縣知事正院

河内縣知事正院

河内縣知事正院

河内縣知事正院
之文

此等之達者、其漸為安、此より
其亦成なるを、其後、其後、
其後、其後、其後、其後、
其後、其後、其後、其後、

年一月九日

温澤正五郎

正院

山

此等之達者、其漸為安、此より
其亦成なるを、其後、其後、
其後、其後、其後、其後、
其後、其後、其後、其後、

大正府校

大正府校

大正府

河内縣、其後、其後、其後、其後、
其後、其後、其後、其後、
其後、其後、其後、其後、
其後、其後、其後、其後、

漢道開業付願去

一往來運轉之便達一更際茂
望一風俗之易文以之太各捕

事、強道、右、少、の、あ、き、に、世、界
中、の、能、知、る、事、を、し、て、強、道、に、有、る、に
國、政、に、良、否、を、表、し、強、道、に、長、短、
を、民、力、に、強、弱、を、表、し、海、に、於、て、
皇、國、に、已、る、早、く、海、を、眼、に、爲、し、政、府、
に、力、を、以、て、海、を、建、築、す、る、故、に、東、京、
横、濱、に、間、の、如、き、海、を、成、切、す、る、外、
神、戶、大、坂、に、間、も、海、を、掛、る、東、京、

東京、近、郊、の、如、き、海、上、に、近、く、經、營、す、
る、事、有、る、由、此、の、開、闢、を、武、に、爲、行、
海、軍、の、臨、近、も、其、中、に、在、る、其、目、
を、一、新、古、の、至、道、に、私、に、一、日、不、忘、欣、
幸、涌、躍、す、る、何、卒、風、俗、に、一、體、を、
革、助、成、志、願、す、る、故、に、至、る、幸、大、坂、に、
博、道、西、部、の、今、に、間、未、だ、若、く、難、し、者、も、
海、に、在、る、海、を、私、に、合、格、社、出、重、

鉄道建築仕度に成功し上る利
益を以て社中より分配し社中より保
護仕度極仕度と存し自在と奉
願上り

一 鉄道建築仕度と確實とを精
意志する外國人と據る法を以て
契約仕度と請負人或は建築作
業雇入並に建築仕度より社中

より取扱可なり是等能く御府
所関係有る候旨と可然御意
留置仰付仕度と願上り

一 鉄道線路上に地所二般公營と爲し
者より得る金當り代償或は
買入方故障無き様御當府より
御意極仕仰付仕度と願上り

一 成功し上る流車運輸規則並に

張亦一美之純之志既而別也
 居日美市往其得之尚何之市
 此所自友之親上以
 一者之外要細儀之退之市何得
 在二律之路道建築之依私一社
 所先許之仰付之私法下以
 難有供合之事存以以上

明治五年壬申十月廿九日

東七組 戸持式區

了持通式丁目

清水町 戸持式區

同 區

了持通式丁目

了持五之街

西六組 戸持式區

南七組 戸持式區

和田久吉清門

東大組才格五區

伏見町三丁目

多木久三郎

同 區

同 町

百武安之清

東大組才格五區

今橋通三丁目

吹田和之清

市書通教出有奥中佐信上

東大組才格五區

今橋通三丁目

戸長

芦田周之郎

東天祖多松三過

之松三有

古松山田平三印



大阪府

權知事 渡邊昇殿